**校長通信**

**H30.7.20**

**Vol.16**

彼　方　【かなた】

**【終業式で伝えたかったこと！】**

　皆さんにとってどんな一学期になりましたか？

この後教室に戻って担任の先生から通知票が手渡されます。そこには一学期の皆さんの足跡が記されています。ただもらっておうちの人に渡して終わるのではなく、必ず「振り返り」をして欲しいと思います。

「振り返り」には、未来を切り拓き、新しい自分をつくっていくというねらいがあります。ダメなことをやったからもうやらないようにしようというような反省では、未来を切り拓くことはできません。何となくではなく、具体的に次の行動に結びつけいけるような「振り返り」をして欲しいと思います。そのためには自分の行為を考えるための問いが必要です。そこで、皆さんにいくつか考えるきっかけとなる質問をしたいと思います。

①自分で立てた目標は何でしたか？

②目標にはどれぐらい近づけましたか？

③できるようになったことは何ですか？

④わかったことは何ですか？

⑤よかったことは何ですか？

⑥今後も続けていきたいことは何ですか？

⑦上手くいかなかったことは何ですか？

⑧学んだことは何ですか？

⑨やっておけばよかったことは何ですか？

⑩自分はどうありたいですか？

⑪次の目標は何ですか？

⑫何のためにやろうとするのですか？

⑬何ができたら目標達成になりますか？

⑭試してみたいことは何ですか？

⑮それができたら幸せですか？

⑯いつから始めますか？

⑰まず何から始めますか？

⑱それは確実にできることですか？

⑲宣言できることは何ですか？

これらの質問の答えをできるだけ具体的に考え、メモすることで考えを表現し、宣言したことを実際に動きだすと確実に今の自分を変えることができます。上手くいかなくてもやろうとして動き出すことがゴールに向かうことなのです。「失敗は成功の途中」なので、あきらめて立ち止まらない限り必ずゴールに向かっているのです。

私は創立四十周年を記念して「白山おやじの会」というのを立ち上げました。私は五歳で父親を交通事故で亡くしました。でも七つ年上の兄や地域の「おやじ」たちが父親代わりになって、山で遊んだり、悪さをすれば叱ったりしてくれました。今は昔ほど地域のつながりが強くなくなってきているようにも思います。でも白山中の学区には、熱い「おやじ」が沢山います。せっかくなのでその地域の「おやじさん」たちの力を借りながら地域の結びつきをさらに強くしていきたいと思いました。実際に動き出すとあっという間に話しが進み、九月の二十二日、二十三日に一泊二日で学校を会場に「震災体験キャンプ」を実施することになりました。何にもないところから立ち上げ、話し合い、役割を決め、みんなで「～したい」を実現させるために動き出しました。何もしなければそこまでですが、失敗しても上手くいくまで頑張ろうとすれば必ずゴールに近づいていきます。成功の反対は、失敗ではなく「何もしない」なのです。　勉強や部活、仲間関係も同じような気がします。「成績をアップさせたい」「部活でレギュラーになりたい」「別な友達をつくりたい」いろんな「～したい」があります。大切なのはその裏側にあるぶれない自分です。「何のために成績をあげるの？」「何のためにレギュラーを目指すの？」「何のために別な友達をつくるの？」と聞かれたときに、「自分以外の誰かのために」があったり、「幸せな自分のために」があったりすれば必ずそれに近づくための行動を起こすことができます。

「校長先生！英語の成績は上がらなかったけど、一生懸命勉強したらだんだんわかってきて楽しくなりました。諦めて何もしない自分のままだったらこうはなっていなかったと思います。アドバイスしていただいて感謝しています。」と声をかけてくれた先輩がいました。それまで自分に自信が持てなかったけど、英語を必死に上げようと勉強しているうちに自分が変わってきたことに気づいたんですね。

誰にでも自分を変えるチャンスがあります。今日いただく通知票もその一つです。「振り返り」をしっかり行って、新しい自分に挑戦してください。そして二学期に元気に再会しましょう！